

質的研究 Step by Step 第2版 すぐれた論文作成をめざして

著：波平恵美子
B5判・152ページ
定価：本体2,600円＋税
発行：医学書院（03-3817-5600）



質的研究論文作成の優れた指南書

評者◎坂下玲子 兵庫県立大学看護学部教授

質的研究の重要性はわかっている、その多様性と奥深さゆえに、どのように研究を進めていけばよいのか、どうしたら研究として成立し、論文として採択されるのか、悩んでいる方も多いと思う。本書は、エスノグラフィー（文化人類学）の手法により「ハレ・ケ・ケガレ」の概念を構築し、わが国の医療人類学の確立・普及に努めてきた波平恵美子氏による質的研究の手引き書の第2版である。本書の対象が、質的研究に取り組みたいと考えている大学院生や指導を始めたばかりの教員であることには変わりはないが、初版から10年が経ち、その間、質的研究が多くの研究者によって取り組まれると同時に、その課題が明らかになってきたことを受け、内容も構成も深まり、多様な例を盛り込みながら、質的研究の研究手順が丁寧に紐解かれている。

第1章は、質的研究の歴史的、哲学的背景が、現象学的思考の流れとともに紹介され、読者は質的研究の意義と可能性に目を開かされるであろう。

第2章は、著者が長年実践を重ねたエスノグラフィーの解説であり、約25ページという決して多くはない紙面に、エスノグラフィーにおける研究者の「位置取り」から、参加観察などのデータ収集方法、データの整理、分析に至るまでそのエクスが濃縮されている。フィールドノートの書き方が実例とともに示され、またデータ整理の具体例が載せられていて、質的研究をこれから進める人には大変参考になるであろう。第3章は、質的研究で最も使われるインタビュー等による口頭資料の収集と分析について解説されている。

第4章と第5章は、研究例を示しながら、研究テーマの設定、文献検討、研究の実施と分析、研究を進める上での問題点について解説されている。第4章では、看護学と文化人類学という違う領域の博士論文の生成過程を比較することにより、質的研究の具体的なステップと多様性が描かれる。第5章は大学院生と指導教員との対話を通して、研究が編み上げられていく過程が示されると同時に、問題点と解決の糸口が示される。

第6章は、質的研究法への疑問や問題点が論じられ、その対策が示される。質的研究論文が“エッセイ”と受け取られないようにするための手段が、さまざまな視点から描かれている。

第4～6章には、通常のテキストにはない本書の特徴が示されている。長年、学生指導にあたって学生とともに、混沌とした現象から1粒の宝石を探索されてきた著者の愛情と熱意を感じる。

本書は、質的研究の入門実践書として書かれていると思うが、平易で読みやすい文章とは裏腹に、随所にちりばめられた適切な引用文献によって、読者はこの本を幹としながら、豊かに茂ったさまざまな文献の枝葉も楽しむことができる。最後には「文献解題」として、質的研究についての良書が、著者の解説付きでリストアップされているので、質的研究をさらに深めたい人にとってはよい先導となる。看護学、文化人類学の領域に限らず、幅広い研究者に読んでほしい本である。